

官民一体で普及に取り組む  
御前崎茶「つゆひかり」

「静 7132」と「あさつゆ」を交配させてできた品種。萌芽期や摘採期が「やぶきた」よりも数日早いわせ種です。温暖な気候により、県内で最も早い新茶の摘み取りと出荷が可能な「つゆひかり」は御前崎茶の新しい推奨品種です。さわやかな香りとまろやかな味わいが特長で、そのまろやかな味わいから「天然玉露」とも呼ばれています。また、お茶をいれた時の色は鮮やかな緑色で、味だけでなく目でも楽しむことができるお茶です。

「つゆひかり」の普及を目的に「茶園ピクニック」や「つゆひかりカフェ」が毎年開催されています。「つゆひかり」や「やぶきた」といった茶葉は、市内お茶取扱専門店などで購入できます。



▲販売促進を目的にさまざまな商品が開発されている

このイベントを聞きつけ、市外から高松地区門屋のまるよ茶屋を訪れた神谷優子さん、後藤真実さん、新藤明葉さん。新藤さんは「ペットボトルのお茶はよく飲みますが、急須で入れたお茶を飲むことはほとんどありません。飲んだとしても急須に茶葉を入れ、ポットのお湯を注ぎ込んですぐ湯飲みについてしまいます。湯冷ましなどは考えてもいませんでした。実際に飲んでみたらいつも飲んでいるお茶とはおいしさが違いました」と話します。神谷さんは「今日はおいしいお茶を飲みながら、気心知れたお友達とゆっくり話ができ有意義でした。ストレス発散になりました」と振り返りました。(2ページ写真)

何かと忙しい現代では、家族団らんの時間、気の合う仲間とゆっくり語らう時間など、自由でのんびりとした時間が持てていないのが現状です。昔から、お茶は日本人の暮らしに溶け込んできました。食後の語らいのひとつときに、仕事の合間の休憩に、客人をもてなす時に人と人をつなぐツールの一つとして飲まれてきました。また、わたしたちの暮らしの中にあつた「茶の間」は、家族が集まりお茶を飲みながら談笑する憩いの場にもなっていました。おいしいお茶を入れるには、時間をかけ、いくつかの工程を経なければなりません。しかし、その時間も楽しく、安らぐことができ、コミュニケーションを

図るには有意義な時間になります。ペットボトルのお茶ではなかなかできない時間ではないでしょうか。 **医療分野でも活躍 お茶の効能** 日本に古くから伝わるお茶。奈良・平安時代には薬として服用されていました。食後にお茶を飲むといった「一服」という言葉は、こうした背景から使われるようになったものです。近年では、お茶の効能に関するさまざまな研究結果がいくつも報告されています。その中には、お茶に含まれる成分が、虫歯予防やインフルエンザ予防、動脈硬化予防、がんなどにも効果があると記されています。

**心にも健康にも良い 幸せ(福)をもたらすお茶** 古くから先人の手により大切に育てられてきたお茶。お茶が醸し出す豊かな時間は、時に友人との語らいの時間や家族、だんらんの時間を、仕事に追われる人に癒やしや安らぎの時間を与えてくれます。のどだけではなく、心も潤してくれるのです。また、人と人をつなぐコミュニケーションツール、病氣予防や薬用としても効果を発揮します。リーフ茶ほど万能な飲み物はないのです。まずは、5分でも10分でもいい、家族や大切な人と憩い、お茶がもたらす時間に浸ってみてはいかがでしょう。 終



④ 注ぎ始めは薄く、後になるほど濃くなるので回し注ぎします。



③ 湯冷まししたお湯を急須に戻し、ふたをして30秒～40秒待ちます。



② 茶葉を急須に入れます。1人分はティースプーンに軽く1杯が目安です。



① 湯冷ましを兼ねて、湯飲みに7～8分目までお湯を注ぎます。

おいしい  
お茶をいれる